

読む得! 在宅医療と介護の連携 第5回 ~身近な事例から~

訪問しています!「薬剤師」

薬剤師の訪問と関係職の連携で 薬の飲み忘れがほぼなくなったケース

高血圧の服薬が必要な一人暮らしの80代男性は、認知症によるもの忘れがあります。介護サービスの利用、かかりつけ医による訪問診療を行っていますが、薬の飲み忘れも多くなり病気の悪化が心配されていました。そこで、薬剤師による月1回の訪問^(※)を開始し、ポケット付きカレンダーに薬が準備できる「お薬カレンダー」を使い始めました。また、本人に関わる医師・薬剤師・ヘルパー・ケアマネジャーは、男性の状態などの情報を共有するために、インターネットを使用した情報共有システム「あびこ・ケアりんく」を活用し、服薬・残薬状況を確認し合いました。



薬剤師の訪問に加え、ヘルパーやケアマネジャーも「あびこ・ケアりんく」で服薬の様子を確認し合いながら、飲み忘れ時の声かけをしたことで、薬の飲み忘れはほぼなくなりました。

※ 薬剤師は住まいへ訪問し薬の相談を行っています。利用には医師の指示が必要です。

第6回は歯科医師編を予定しています。

我孫子市在宅医療介護連携推進協議会 広報部会

問 高齢者支援課 ☎7185-1112